

辺野古工事再開



中断していた名護市辺野古の埋め立て本体工事再開を止めようと、海上で抗議活動を行うカヌー隊ら
＝27日午前8時50分すぎ、名護市の大浦湾(具志堅千恵子撮影)

防衛局、浮具を準備

10カ月ぶり

埋め立て効力復活

【名護】沖縄防衛局は27日、米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設に向けた工事を再開した。今年3月4日に国と県の辺野古代執行訴訟の和解で工事が中断して以来、約10カ月ぶり。米軍キャンプ・シュワブ内に保管しているフロート(浮具)を海上に設置するための準備を進めている。本格的な工事は年明けに再開する見通し。来年1月以降に海底掘削(ボーリング)調査や汚濁防止膜設置に伴うコンクリートブロックを海中へ投下し、護岸設置に向けた作業を進める。

翁長雄志知事は昨年10月に普天間飛行場移設に向けた辺野古埋め立て承認を取り消していたが、辺野古違法確認訴訟で最高裁が20日、県敗訴の判決を出したことを受け、埋め立て承認の取り消し処分を26日に取り消した。県が郵送した取り消しの通知文が27日、防衛局に届き、埋め立て承認の効力が復活した。

シュワブのゲート前では27日午前、辺野古移設に反対する市民ら約150人が集まり、工事再開に抗議の声を上げた。大浦湾の海上でも同日午前、カヌー12艇や抗議船5隻が工事再開の動きを警戒・監視し、辺野古埋め立て反対の声を上げた。